

**製品名: クレアチンキナーゼ M ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09373**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	43kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CKM
別名	CKM; CKMM; Creatine kinase M-type; Creatine kinase M chain; M-CK
遺伝子 ID	1158.0
SwissProt ID	P06732
免疫原	抗血清はヒト M-CK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

**背景**

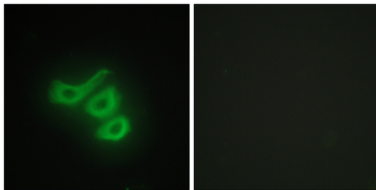
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、エネルギー恒常性維持に関与する細胞質酵素であり、心筋梗塞の重要な血清マーカーである。コードされるタンパク質は、ATP とクレアチンリン酸などの様々なリン酸化原との間のリン酸の授受を可逆的に触媒す

る。横紋筋およびその他の組織ではホモ二量体として、心臓では同様の脳アイソザイムとヘテロ二量体として機能している。コードされるタンパク質は、ATP:グアニドリン酸転移酵素タンパク質ファミリーのメンバーである。[RefSeq 提供、2008年7月]、触媒活性:  $ATP + \text{クレアチン} = ADP + \text{クレアチンリン酸}$ 。、機能: ATPと様々なリン酸化原 (例: クレアチンリン酸) との間のリン酸の授受を可逆的に触媒する。クレアチンキナーゼアイソザイムは、骨格筋、心臓、脳、精子など、エネルギー需要が大きく変動する組織におけるエネルギー変換において中心的な役割を果たします。、オンライン情報:CKM エントリ,オンライン情報:クレアチンキナーゼ エントリ,類似性:ATP:グアニドホスホトランスフェラーゼファミリーに属します。、サブユニット:同一または異なる鎖の二量体。MMは骨格筋と心筋で主要な形態であり、MBは心筋に存在し、BBは多くの組織、特に脳に存在します。、

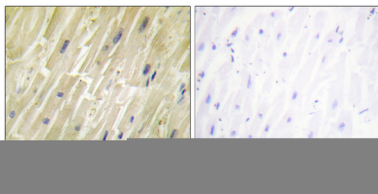
## 研究分野

アルギニンとプロリンの代謝;

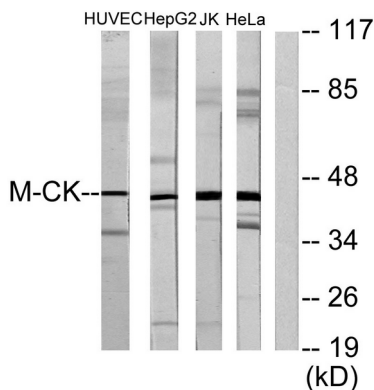
## 画像データ



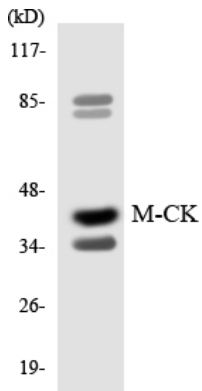
M-CK抗体を用いたHepG2細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



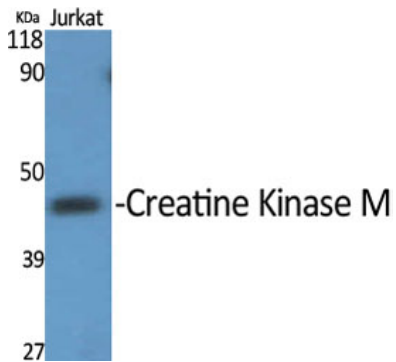
M-CK抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



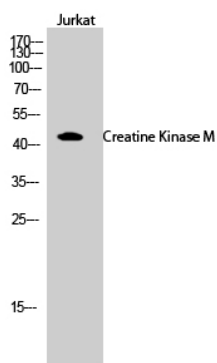
M-CK抗体を用いたJurkat細胞、HeLa細胞、HepG2細胞、HUVEC細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。



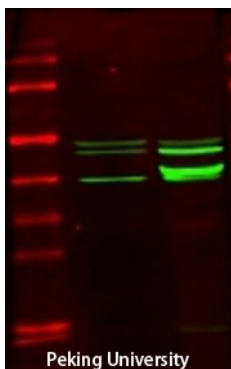
M-CK 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



クレアチンキナーゼ M ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



クレアチンキナーゼ M ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析



写真はお客様から提供されたものです